

サハラ砂漠の村に小さな種を育てる活動を支援する会

第1巻 第1号 発行日 2003/5/5

*捨てればゴミ、使えば資源

*資源や環境を大切にしている経験や智慧や支援を寄せて下さい

NGO OKHOTSK 093-0042 網走市潮見 8-1-5 Tel: 090-5989-1046 mail: famcon@seagreen.ocn.ne.jp

サハラの民の夢を育てる松本君 (27)

東京出身の一人の青年が自然との関わりあう体験を求め旅に出て瀬戸内海で環境を大切にする車海老養殖主に出会ったのが事の始まり。その後カナダでの鮭鱒養殖、そしてオホーツクでの漁業体験を経てモロッコ人との出会いからサハラ砂漠大西洋沿岸の日本人は彼一人の集落に住む。僅かな水と草を求めて暮らすしか無い住民と共に小さな夢を育てる事に青春を掛けている青年「松本卓君」(27)が3年間の成果を持って一時帰国。約1週間の滞在予定。

「無い無い尽くし」でこそ出来た貴重な経験

そこには日本では忘れかけている「豊かな何か」がある

何も無い状態から住民の生活改善のためにまず第一段階として大きな船や機械が無くても出来る沿岸の貝類の活用に取り組みました。砂漠に沢山の化石層がある事にヒントを得たのです。

在来種から良い貝を選び優良種苗を利用したところ約6ヶ月で出荷サイズに成長しました。

森も川も雨も無いのに成長が良いのは強い太陽が貝類の餌になるプランクトンを育てるのでしょう。先週、殻付き牡蠣を初出荷しました。幾つかの取り組みの中で初めての成果です。

水揚げの準備が出来た1,2トンの牡蠣は施設が無いのでノト岬のような崖を人力で担ぎ上げカサブランカへ運びました。地続きのようなヨーロッパへの輸出も可能です。松本君の3年間にわたる現地での努力の成果が現れ始めました。

今回の一時帰国は日本から贈った89年型カロラのキャブが砂嵐で故障。船外機その他手に入らない部品の調達と今後の取り組みの準備のためです。

けっして豊かでは無いが一皿の食べ物もみんな分かち合う村人の世界。水は貴重で食器は紙で拭ってからコップ一杯の水で洗うような生活条件にも関わらず現地に帰ろうとする青年の気持ちを動かすのは何なのでしょう。

何不自由の無い日本では理解出来難いことですが現地の住民の中に溶け込む姿に松本君の熱い思いを感じます。

短期間の滞在ですが一人でも多くの人々に彼の思いが伝わるようにと応援しています。



強い太陽の下で良く育つ牡蠣

「松本卓君の現地報告会」

日時: 5月 日 曜日 時

場所: 未定

連絡: 090-5989-1046

いつでも、どこへでも伺います

日本では不要品でも、小さな事でも大きな支援になるという呼びかけをしたいのです。

興味のある個人や家庭、グループの集まり会社や学校など何処にでも呼んで下さい。一人でも多くの人の理解と小さな支援が遠くの人々の役立つ事になるのです。

期間: 5月12日から18日まで

時刻: いつでも、どこでも

費用: 無料

内容: 写真、資料など。雑談形式で。

連絡先: 090-5989-1046

子供達の支援には

あなたには不要品でも小額のお金でも途上国の子供達には大きな夢と可能性を与える事が出来ます。

*例えば1000円でも現金収入の無いサハラの人々の健康や教育の支援になります

*子供達が学校へ行くには服やサンダルや靴や鉛筆がいります。

*こんな小さな支援が必要なのです。

サハラではこんな物も必要としています

*故障の少ない旧式機械類。

*砂漠なのに防寒具が必要。

*羊毛の利用方法・道具類。

*小さな支援。

10年位前の単純な仕組みの機械類とか道具類、生活用品や教材などが重宝です。

*機械類: ターボの付かないジーゼルエンジン・車・機械・道具類

*漁具類: 小漁船・船外機・網

*防寒具: 毛糸の帽子・ゴム長靴

*日用品: プロパンガス器具・七輪・ミシン・紡機

*教材類: 楽器・鉛筆・ノート等